

HIC通信

Vol. 104
April 2019
Hiroshima
International
Center



#留学生による伝えるHIROSHIMAプロジェクト

2019/3/13-3/15

目次

- P2 異文化共生
 - イスラム教への正しい理解(その2)
- P4 メキシコ選手団通訳ボランティア
- P6 事業報告
 - 交流部
 - 留学生活躍支援センター
- P9 ひろしま国際センター
 - 草の根国際協力助成金
 - 交付事業募集／海外大学日本語・日本文化体験
- P10 コラム
 - Hello Hiroshima
 - 相談窓口の業務の変更について
- P11 JICAレポート
 - こちら JICA デスク



表紙:伝えるHIROSHIMAでの様子
(H31.3.13~15)

Halal food shop ハラルショップ・アリ インタビュー

★ 松本圭太さん・ルリさん ★

広島県内にも2,000人近くのイスラム教徒が暮らしていると思われます。日本人によってイスラム教はなじみが薄く、残念ながら「怖い」とか、「おそろしい」というイメージを持っている人も少なからずいます。今日は、ムスリムのためにハラルフードショップを東広島市と尾道市因島で開店された松本さん御夫妻にお話しをお伺いします。



○松本さんは、平成25年から海外ボランティアでインドネシアに行かれたとのことですが、海外ボランティアに興味を持たれたのはどのような理由からですか。

→実業団で陸上をしていた時に、隣の部屋にケニア出身の選手がいて、彼から子供の頃から過酷な環境で走っていたことを聞きました。その時高橋尚子さんのアフリカスマイルプロジェクトで靴をアフリカに寄付する活動を知ってアフリカに靴を寄付していたのが、きっかけで何か世界で役に立つことができないかインターネットで調べていたら、海外青年協力隊で陸上競技を通じ貢献できることを知り応募しました。

○海外青年協力隊の赴任地がインドネシアだったのですか。
インドネシアには前から興味があったのですか。

→興味があったというよりも当時はインドネシアしか募集がなかったのでそれに応募しました。インドネシアでは、中高生を対象にした州の選抜チームのコーチをしました。

○海外青年協力隊の赴任は2年間だったと思いますが。

→2年の予定でしたが、向こうで少し体調を崩したので結局1年半で半年早く帰国しました。

○インドネシアで奥様に出会われ結婚されたとのことですが、奥様とはどのようなきっかけで出会われたのでしょうか。

→赴任先の近くに彼女が住んでいてそこで出会いました。当時は付き合っていましたが結婚までは考えていませんでした。帰国後1年半ぐらいLineでの遠距離交際を続け、結婚は出会ってから約3年後ぐらいでした。

○結婚は日本でされたのですか。

→結婚式自体はインドネシアでしたが、結婚は日本でしました。

○結婚までにお互いの家族の反対とかはなかったですか。

→特に反対は両方ともありませんでした。

○松本さんは、結婚を機にイスラム教に改宗されたとのこと

ですが、なぜ改宗されたんですか。

→改宗しないとイスラム教の場合には結婚できないというのが一番の要因でした。

○イスラム教に改宗される時にご両親の反対はありませんでしたか。

→ありませんでした。両親とも寛容でした。

○松本さんは元々広島の方ですか。

→元々は茨城ですが、インドネシア語の通訳の関係で広島に来ました。

○奥様は、2017年2月に来日されたと聞いていますが。

→来日は2016年5月でしたが、ビザが正式に下りたのが2017年2月です。

○インドネシアはあまりに身近な国なので、日本人はインドネシア人の多くがイスラム教徒だと思っていない人が多いと思います。逆にそれで、日本で生活をして不自由をされることはありませんか。

→インドネシア自体も5つの宗教があり、イスラム教、キリスト教、仏教、ヒンズー教等があります。日本に来ても食べ物に少し困るぐらいです。私は魚が好きですが、日本は魚が多いので大丈夫です。

○食事ですが、ハラル認証（※宗教と食品科学の2つの面から、専門家がイスラム法上で食べることが許されている食材や料理であることを保証する制度）をしていなくても豚肉とアルコールさえ食べなければ大丈夫ですか。

→鶏肉や牛肉でもハラル認証していないと妻は食べないです。外食はあまりできません。

○イスラム教の場合、毎日5回お祈りをすると思うのですが、毎日5回お祈りをされていますか。また、ヒジャブ（※イスラム教徒の女性が頭や身体を覆う布）はされないのでしょうか。

→お祈りは毎日5回しています。ヒジャブはしなければいけませんが、いつから始めるかは本人次第です。ヒジャブはこれからずっとするという準備ができたら始めます。

○奥様はインドネシアでもヒジャブはしていなかったのです



Halal food shop
ハラルショップ・アリ
インタビュー



か。子供の頃から全員がするのかと思っていました。

→インドネシアにいる時もしていませんでした。勿論、子供の頃からしている人もいます。

○食事以外で日本に来て困ったことはなかったのでしょうか。

→まだ、日本語がよく分からないので、主人が居ない時に病院に行き、自分で症状を説明するのは難しいです。

○病院に行った時、医者に通じましたか。

→まだ一人で行っていません。主人が帰って来てから一緒に病院に行きます。

○お医者さんに聞くとスマホの自動翻訳ソフトをもってくる外国人が多いそうですが。

→インドネシア語は島によって言葉が違う（方言よりももっと違う）ため、難しいです。

○近くにインドネシアの知り合いの方はおられますか。

→はい。200人くらいいます。西条は広島大学の留学生が多いです。技能実習生は西条には少ないですが、広島県内にはたくさんいます。広島県は愛知県・大阪府の次に多いそうです。

○イスラム教徒の方の集まりはあるのですか。

→1ヶ月に1回集まってイスラム教の勉強をします。

○お友達の方で何か困っておられる方はいませんか。

→日本の気候で、夏は暑くて、冬は寒すぎます。インドネシアも暑いですが、日陰に入ると涼しいです。広島は蒸し暑く、それで体調を崩す人が多いです。それと外食できる場所がないので、自分で食事を作っています。

○まず東広島市で「ハラルショップ・アリ」を開店されたとのことですが、開店はどのような経緯からでしょうか。

→スーパーに買い物に行っても日本語の成分表が読めない人がたくさんいます。東広島市にはそういう人が多いのでこ



こに店を出しました。

○店名の「アリ」にはどのような意味がありますか。

→私の名前です。改宗する時にイスラム名を与えられるのですが、それが「アリ」です。（アリ松本）

○商品は海外からの輸入ですか。どのような方が来られ、どのような商品がよく売れますか。また、お客様からの反応はいかがでしょうか。

→商社を通じてインドネシアやバングラデシュ等から輸入しています。醤油や味噌など一部は日本のメーカーから購入しています。最初はインドネシアの方だけを考えていました

が予想以上にバングラデシュやパキスタン等のイスラム教の人が来られたので、徐々にそちらの食材も増やしていました。今5割ぐらいがインドネシアの人で、残り5割が中東やそれ以外のイスラム教の人です。良く売れる商品はハラル処理された冷凍の肉類です。お客様は、この店ができるまではインターネットで注文していたですが、実物を見て購入できるので喜んでもらっています。



○その後、今年5月には因島に2号店「ケララ アジア アンド ハラル マーケット」を開店されたとのことです。これはどのような経過からですか。店名の「ケララ」とはどのような意味がありますか。

→因島には造船関係の技術研修生や特定活動で来られているインドネシア人が多く、インターネットやインドネシア人のコミュニティ情報でハラルショップの存在を知った因島からの注文が予想以上に多く、最初は送っていましたが送料等を考えたら因島に出店した方が良いかなと思って出店しました。「ケララ」はインドネシアで「自由に生きる」と言うような意味があります。

○因島のお店ではどのような商品を扱っていますか。また、どのような方がお店に来られ、どのような商品がよく売れますか。お客様からの反応はいかがでしょうか。

→品揃えはこちら（西条）と同じですが、プラスでタイやベトナム、フィリピンの食材も扱っています。出張して金、土、日の3日間店を開けています。その間こちらの店は妻が対応しています。火曜日が定休日です。因島の方からは店が近くに出来たので、便利になったと言われています。

○今後も出店をされますか。

→二人で出来る範囲で無理しないで、やっていきたいと思います。

○奥様にお伺いしたのですが、イスラム教徒と日本人が上手に生活するために、日本人にどのようなことを希望されますか。どのような点に気を付ければいいでしょう。

→日本にお祈りするスペースが少ないと、犬を飼っている方が多くて少し怖いです。イスラムでは犬は触ってはいけない（犬の唾液に触れてはいけない）動物になっています。インドネシアにはほとんど飼い犬はいません。そのため犬=野良犬で怖いというイメージがあります。

ハラルショップ・アリ

住／〒739-0012 広島県東広島市西条朝日町7

営／10:00-20:00 木、日休み

TEL／080-3725-3044

WEB／<https://www.facebook.com/Halalshopali>



ケララ アジア アンド ハラル マーケット

住／〒722-2102

広島県尾道市因島重井町5221-7

営／10:00-20:00



日本も元気にする



「世界を元気にする」これはJICA海外協力隊のシゴトです。でも実は、もう一つ大事なシゴトがあります。それは、「日本も元気にする」隊員には、海外での経験を、日本、とりわけ自分の住む地域に還元するというシゴトもあるんです。

広島県では2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、2018年からメキシコ選手団の事前合宿を受け入れています。広島合宿の特色は、両国の絆を深めるための交流プログラムが積極的に盛り込まれていること。

そんな交流の場で通訳ボランティアとして活躍しているのが、

中南米地域から帰国したJICA海外協力隊の経験者たちです。

今回は、地域を盛り上げるために奮闘する隊員OB/OGたちの様子をお伝えします。

氏名 / 派遣国 / 職種 / 派遣期間

市民とメキシコの方々が楽しんでもらえるようにサポート

横竹 歩 ドミニカ共和国 / 環境教育 / 2013年7月～2014年11月

ドミニカ共和国で学校を巡回し、リサイクル工作や環境問題について考えるワークを行っていました。

文化とはいえ、職場のおじさんの情熱的なハグとキスの挨拶には日々苦労させられました。

通訳ボランティアで私が同行したのは、選手と高校生の交流会。高校生はイケメン選手達に大興奮（笑）、選手達も年齢の近い高校生との交流は楽しそうでした。言葉は拙くてもお互い積極的に話しかけていたので近くで見守り、どうしても伝わらなくて困っている時だけ通訳するようにしました。一口に「通訳ボランティア」と言っても、練習、交流、観光と色々な場面があり、それぞれ求められる役割も変わると感じました。

活動では、語学力はもちろん大切ですが、笑顔を忘れないように心がけています。選手が安心して練習に集中できるように、また市民の方がメキシコに興味を持って、楽しんで交流できるようにサポートできたらと思っています。2020年まではもちろん、オリンピック後も何かスペイン語圏の方の役に立つ事に関われる嬉しさです。

パラグアイ



大豆畑で写真を撮る吉岡さん

メキシコ文化への興味から通訳ボランティアへ

吉岡 真利子 パラグアイ / 経理事務 / 1999年2月～2001年2月

パラグアイ日系社会の農協で経理事務をしていました。地域に出向いて簿記講座や家計簿講座をしたり、お好み焼きで広島紹介をしたりすることもありました。日系社会なので農協内は日本語でしたが、帳簿類はスペイン語。地域の講座でも簿記用語の説明にはスペイン語が必要でした。

最近、職場でメキシコ人と接する機会があり、メキシコ文化に興味を持ち始めていたところ、通訳ボランティアの募集があると知り、こんなチャンスめったにない!!と登録しました。スペイン語力は“超”不安で、「こう言えば良かった」と後悔しきりでしたが、コーチや選手が日本文化を理解しようと耳を傾けてくれたのは嬉しかったです。

パラグアイでの活動も貴重な経験でしたが、今回の通訳ボランティアもやって良かったと思います。「いてくれて良かったよ」と言ってもらえるよう、今後も勉強していきたいです。

シニア海外ボランティアの経験を生かして社会貢献

佐藤 哲夫 チリ / 行政サービス / 2011年10月～2013年10月

シニア海外ボランティアとして、チリ厚生省で食品安全監査技術向上プログラムの開発や実施を行っていました。活動はチリ人の同僚と充分コミュニケーションをとりながら実施しましたが、専門分野の説明をする時は日常会話力ではとても対応できず、図、表、インターネット画像を駆使しました。

今回通訳ボランティアに登録したのは、JICAの活動で習得したスペイン語を使って社会貢献できる機会だと考えたからです。うまく伝えられなかったことは、家に帰ってから辞書で単語を調べなおし、後日、再度伝えるようにしました。



日本語大好きな若者と交流する佐藤さん



ドミニカ共和国



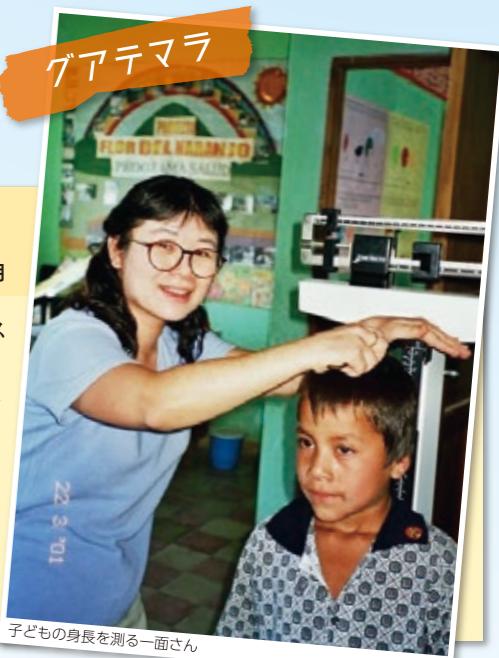
折り紙を教える横竹さん

17年ぶりのスペイン語まだ大丈夫かな？

一面 貴子 グアテマラ / 栄養士 / 1999年7月～2001年7月

グアテマラの先住民が多く暮らす町で栄養知識の普及活動や衛生教育をしていました。スペイン語もままならないのに、先住民はマヤ語。周囲に助けられながらの活動でした。

今回通訳ボランティアに登録したのは、メキシコの人たちと話したら楽しいかな…そんな不純な動機です。帰国して17年。スペイン語まだ大丈夫かな…？そう思いながら出かけましたが、朝一番はヤバかった！日本語をそのまま直訳しそうになって、うまく通訳できなかったんです。言葉って面白いもので、一字一句正確に訳せば通じるというものではありません。その国独自の言い回しとか、ニュアンスも大事というか…。でも、思い出せない単語はメキシコ人に教えてもらいながら話をしていると徐々に感覚が戻ってきて、夕方には普通に会話ができるようになりました。



子どもの身長を測る一面さん

柿本 美佐

ホンジュラス / エイズ対策 / 2005年4月～2007年4月

カリブ海沿いの町で、赤十字スタッフと一緒にエイズ予防プロジェクトをしていました。身体の仕組みや、自分も他者も大切にすることはどういうことかを、まず高校生リーダーに学んでもらい、それを地域で広めてもらうという活動で、お祭りやイベント、TV、ラジオに出演しました。私の拙いスペイン語は赤十字スタッフや高校生リーダーがカバーしてくれました。生活面ではラテンならではのスキンシップに戸惑いました。中には膝に乗ってくる女子高生がいたり、髪や顔を触られたり、肩を組んできたり…。でも帰国すると、そんな「人との距離の近さ」が逆に懐かしかったです。

ホンジュラスでお世話になった恩返しができれば…と通訳ボランティアに登録し、活動では日本文化体験の一環として花田植えに同行しました。途中で「もうやめたー！」と言い出すと思っていましたが、さすがオリンピック候補！「やめていいよ」と言っても「あともうちょっとだから！」と最後までやり通し、その後もずっと笑顔。体力も周りへの気遣いもすごい人たちなんだと感心しました。

ボランティアも「参加することに意義がある！」日々スペイン語を勉強しながらおしています！



啓発セミナーをする柿本さん

i Esperamos tu ayuda!

通訳ボランティア 大募集!!

広島県では通訳ボランティア(スペイン語)を募集しています。メキシコ選手団を言葉の面から支えていただける方、お待ちしています！

今年も4月から様々な競技の選手団がやってきます！JICA海外協力隊OB/OGたちも通訳ボランティアの一員として、皆さんと一緒に、選手団も広島も元気にします!!

メキシコ選手団による広島県の事前合宿の競技・合宿地・日程などの最新情報はホームページでチェックしてください。
<https://www.campmexico.jp/>



• Activity Report •

交流部



Report 1 HIC医療通訳ボランティア派遣事業を実施しています

運用計画

実証（試験）運用	2019年11月30日まで	正式（本格）運用	2019年12月1日から
----------	---------------	----------	--------------

(実証運用期間中の派遣区域)

区分	医療機関	保健機関
2019.4.1～	広島市、廿日市市	同左
2019.9.1～	広島市、廿日市市、三原市、尾道市、福山市、府中市、世羅町、神石高原町	同左

※実証運用期間中は、ボランティアに対する協力金・交通費相当額は、ひろしま国際センターが全額負担します。

HIC医療通訳ボランティア養成研修の日程（2019年度）

《福山会場》【対象言語】英語、中国語、ベトナム語、タガログ語、ポルトガル語

区分	日程	申込受付期間
養成研修(4日研修)	7月6日、7日、13日、14日	5月20日～6月21日
養成研修(ミニ I)	【前半】7月14日、【後半】8月	5月20日～6月21日
養成研修(ミニ II)《第2回》	【前半】10月12日、【後半】11月	8月23日～9月27日
養成研修(ミニ II)《第4回》	【前半】1月25日、【後半】2月	12月6日～1月10日

備考：養成研修（4日研修、ミニ I・II）は、希望者多数の場合は申込書の資格経験等を考慮し、事前に書類選考します。

《広島会場》【対象言語】英語、中国語、ベトナム語、タガログ語、スペイン語

区分	日程	申込受付期間
養成研修(ミニ II)《第1回》	【前半】5月12日、【後半】6月	3月20日～4月26日
養成研修(ミニ III)《第1回》		
養成研修(ミニ II)《第3回》	【前半】11月17日、【後半】12月	9月27日～11月1日
養成研修(ミニ III)《第2回》		

備考：養成研修（ミニ II・III）は、希望者多数の場合は申込書の資格経験等を考慮し、事前に書類選考します。

交流部



Report 2 日本文化理解促進事業 能楽の募集

ひろしま国際センターでは、日本文化理解促進事業として「能楽鑑賞」を開催します。この企画は（公財）ひろしん文化財団主催の「青少年のための能楽鑑賞教室」に参加するものです。

能舞台で演じられる伝統文化「能」「狂言」を鑑賞する大変貴重な機会です。外国人の皆様、ぜひ参加ください。当時は、狂言は「附子」、能は「土蜘蛛」が演じられる予定です。

開催日時：5月27日（月）
10：30～12：00
場 所：アステールプラザ 中ホール能舞台
(広島市中区加古町4番17号)
集 合：10：00
アステールプラザ正面玄関
定 員：60名（先着順）
参 加 費：無料

参加資格：広島県内に在住の外国人の方又は
外国人と日本人のグループ
申 込：下記 e-mail アドレスに、参加者の住所、氏名、性別、
生年月日、国籍、使用言語を記入し、送付してください。
締 切：5月24日（金）
問い合わせ：（公財）ひろしま国際センター
TEL：082-541-3777
MAIL：mail:hic20@hiroshima.ic.or.jp

交流部



Report 3 「雪生活体験」を開催しました。

1月27日（日）、「雪生活体験」を、美和東文化センター（広島県山県郡北広島町溝口）にて、美和東ふるさと振興協議会と共に開催し、広島県内在住の外国人42名（14か国・地域）に参加していただきました。

金曜日までは全く積雪がなく、雪の無い雪生活体験になると諦めしていましたが、金曜日の夜半から奇跡的に雪が降り始め、北広島町はまさに銀世界でした。

早速、地元の方や子供たちとかまくら作りや雪滑り、雪合戦を楽しみ笑いが絶えませんでした。地元の方の案内で雪に包まれた町の散策もしました。雪遊びの後は、女性会美和東支部の皆さんがあられた地元料理と、外国人参加者による多国籍料理を囲んで交流会を行いました。ステージ発表では、地元芸能の銭太鼓、地元のユルキャラ花田舞太郎との総踊り、神楽を鑑賞しました。参加者からは中国イ族の民族舞踊、メキシコ民族舞踊、国際交流員による津軽三味線を披露してもらいました。

最後に、参加者を代表して李 明姫さん（中国）が謝辞を述べ、例年同様、美和東ふるさと振興協議会の皆さんと一緒に記念写真を撮って終了しました。



交流部

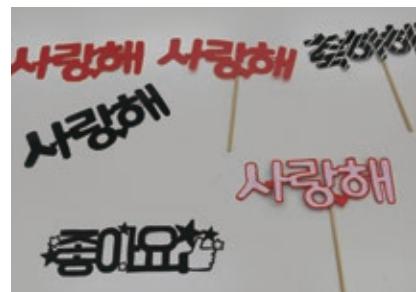


Report 4 3/2(土)インターナショナル・カフェ 韓国編

3/2にインターナショナル・カフェ韓国編を実施しました。

今回は「はじめてのハングル～ハングルトップ～」というテーマで実施しました。

スピーカーには広島県CIRの鄭アルムさんに来ていただき、第1部ではハングルの歴史・成り立ち・ハングルの仕組みなどの説明、第2部では韓国のSNSで流行っている“トップ”というグッズのワークショップを実施しました。作り方はハングルの形に厚紙を切り、切り抜いた厚紙を棒に貼り付けて作ります。用意した図柄（ハングルや猫などの図柄）を工夫してオリジナルの物を作つて下さった方もいらっしゃいました！アルムさん、ご参加の皆様ありがとうございました！



交流部



Report 5 マツダ駅伝大会に参加しました

平成31年3月3日（日）に、毎年マツダ㈱構内で開催される「マツダ社内駅伝大会」に出場しました。

今年のHICチームは、ベトナム、中国の外国人留学生、HICスタッフおよびスタッフの知り合いのお子さん7名で出場しました。

当日は生憎の雨でしたが、7人全員がHICのハッピを着て元気にタスキを繋ぎました。入賞はできませんでしたが、多くの方の声援を受けながら、楽しく走ることができました。



• Activity Report •

交流部



Report 6 外国人留学生奨学生への寄附を募集しています

公益財団法人ひろしま国際センターでは、企業、団体及び県民の皆様からの御寄附などを原資として外国人私費留学生へ奨学生金を支給しています。皆様の温かい御寄附をお待ちしております。

◆奨学生の種類（寄附を原資とするもの）

企業等協力留学生奨学生（1口 37万円）

県民支援留学生奨学生（1口 5千円）

※いずれも何口でも可、企業等協力留学生奨学生は0.5口でも可。

◆支給額

年額36万円の奨学生金を支給します。



◆振込先

【県民支援】（1口5,000円）

加入者名：（財）ひろしま国際センター

広島銀行 県庁支店 普通 1007351

もみじ銀行 広島中央支店 普通 1862450

広島信用金庫 本店営業部 普通 0473112

【企業等協力】（1口370,000円）

加入者名：（財）ひろしま国際センター

広島銀行 県庁支店 普通 0708844

※振込用紙を御希望の方は、当センターから指定の振込用紙を送付させていただきます。

（指定の振込用紙を使用すれば振込手数料はかかりません。）

◆税法上の特例措置

公益財団法人への寄附は、

税制上の特例措置を受けることができます。

◆お問合せ先

公益財団法人ひろしま国際センター

電話：082-541-3777

留学生活支援センター



Report 7 「外国人留学生による広島留学動画コンテスト」表彰式を開催

2019年3月5日（火）、外国人留学生による広島留学動画コンテストの表彰式を開催しました。このコンテストは、留学生自らが広島留学を始めて最初に戸惑ったことやその解決方法、広島留学の魅力を伝えるキャンパスライフなどについて動画で自由に発信してもらったもので、県内在住の外国人留学生から計27作品の応募がありました。当日は入賞した7作品の表彰式及び上映会を行いました。受賞者は、受賞できた喜びや動画の制作理由を語り、上映される作品を楽しそうに観していました。

応募作品はYouTube上で視聴できますので、是非ご覧ください。（<https://www.youtube.com/user/int4545>）

また、このコンテストは来年度も開催予定です。留学生のみなさん、たくさんのご応募をお待ちしております！



草の根国際協力助成金交付事業のご案内



民間レベルの自発的な国際協力活動を推進するため、ひろしま国際センター研修部では、民間の非営利団体が実施する国際協力活動に対して、事業費の一部を助成します。ぜひご活用ください。

応募締切は、2019年5月7日（火）（必着）です。

対象となる事業

①国際協力の担い手となる人材を育成する事業

広島県内で実施される講演会、セミナー、体験活動など

②開発途上の国や地域での国際協力事業

福祉・保健・医療・環境保全、教育文化、産業技術など

事業期間 2019年4月1日～2020年3月31日

助成額

対象経費の50%以内

（上限額：対象事業①100万円 対象事業②200万円）

対象団体

公益を目的とした民間の団体で、かつ、次の要件をすべて備えた団体

①国際協力の理念を理解し、国際協力の推進を、目的に活動すること ②広島県内に活動の拠点があること

③構成員の過半数が広島県内に住んでいること

募集期間 2019年4月1日～2019年5月7日

お問い合わせ

(公財) ひろしま国際センター研修部 電話：082-421-5900

※助成団体の活動概要や募集要項をホームページに掲載しています。

▶ <https://hiroshima-hip.or.jp>



広島で日本語の学びと 日本文化に対する理解を 深めました！

～広島県海外大学日本語・日本文化体験プログラム：中国・楽山師範学院～



HICでは、広島県から「海外大学日本語・日本文化体験プログラム」事業を受託し、日本語や日本文化の研修を通じて、アジア・太平洋地域等の大学生等に日本と広島への理解を深めていただく取組みを行っています。

このプログラムを利用して、中国・四川省の楽山師範学院の学生5人の皆さん、昨年10月23日から12月13日にわたり、ひろしま国際プラザを拠点に研修を行いました。

約2か月にわたる長期間の研修でしたが、皆さん、日本語授業や広島県の内外の見学など毎日を有意義に過ごされたようです。

広島の印象をお聞きしたところ、「広島は東京に比べて静かで自然が多い」とのこと…。日本語授業の一環



で作成した「広島県の魅力発信の動画」では、「尾道（猫）」、「鏡山公園（東広島市）」、「広島大学」、「縮景園、県立美術館、広島城」を取り上げたそうです。

「将来の目標は？」との質問に対しては、「日本の大学院に進学して日本語の先生になりたい」、「日本語能力試験のN1を取りたい」、「大学卒業後に日本の大学に留学したい」、「大学卒業後、日本企業に就職したい」など、うれしいお言葉を聞くことができました。

参加者の皆さんを代表して、黄敬奚さんから「この研修のおかげで、来る前より日本語がうまくなったと思います。知らない人と交流することも経験しました。日本文化や日本人の生活を知ることができたこともよかったです」との感想をいただきました。

今回の研修を通じて日本語や日本に対する関心を一層深めていただくことができ、日本語講師をはじめ研修部スタッフもうれしい限りです。訪問をお受けいただいた大学・企業の皆様、プログラムにご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

楽山師範学院の皆さん、ぜひ目標を実現して、広島に戻ってきてくださいね！お待ちしています！



▲広島大学では中国人留学生から留学生活についてお話を聞きました

Hello Hiroshima

Vol.104 April 2019



Breaking Routine

Daniel Mackey

This weekend, I had the opportunity to hike up Mt. Misen at Miyajima. It had been over a decade since I had gone mountain hiking, so I was a little bit apprehensive about how well my neglected, middle-aged legs could handle the gauntlet. But, praise be to the mountain gods, the hiking course turned out to be slightly easier than expected. Clear skies on this day afforded a truly majestic view of the surrounding area, especially in the direction of the Seto Inland Sea. Once we reached the observation deck at the top, we stopped to take it all in and have a light snack.

This outing reminded me that sometimes it feels really good to take a break from my daily routine and try something different. I have a strong tendency to get absorbed with my various electronic gadgets, in particular, so I welcome a change of scenery from time to time. We often hear that children these days spend way too much time indoors due to smart phones, video games, and other consumer electronics, as well as a growing reluctance by overprotective parents to let children play freely outside for fear of accidents and strangers. To this, I can definitely sympathize

even though my own childhood was typically spent outdoors since we didn't have any of the gadgets that are so ubiquitous now.

Like something out of a dystopian Sci-Fi movie, some people believe that AI may one day take over our world completely. In a sense, you might be able to say the road is already paved and the job half-done when you consider just how dependent we are on technology and computers in our society. As our lives grow increasingly entwined with the technology that surrounds us, you have to wonder if there is a point at which we should try to curb its pervasive influence on our lives, or whether such a thing is even possible anymore.

Interestingly, while many in the West see AI as a potential threat, it doesn't seem to have quite the same stigma in Japan, where AI is considered only in terms of its beneficial applications to humanity. Often, this is characterized by consumer robots that are designed to appear endearing and helpful. The enduring popularity of anime characters like Astro Boy also speaks to this conception.

It will be interesting to see how things shape up in the future. For now, I need to do something about my wobbly legs as I consider the next challenge!

広島県 外国人 相談 窓口 機能の拡充について

HICは県内で暮らす外国人の皆さま方が、安心して暮らしていただけるよう「外国人相談窓口」を開設しています。この窓口では、在留資格や社会保険・労働条件などの専門的な相談や暮らしに関する相談を、英語・中国語・ベトナム語・韓国語・タガログ語・日本語の6か国語で提供しています。

■相談日時は土曜日も可能になり、対応言語は中国語・ベトナム語が増えました！

相談窓口の場所	広島クリスタルプラザ6F（広島市中区中町8-18） (公財)ひろしま国際センター (HIC)	相談内容	○在留資格 ○社会保険・労働条件ほか
相談日時	毎週木曜日及び土曜日 午前（10：00～12：00）， 午後（13：00～16：00） ※ただし、祝日及び年末年始（12月28日～1月4日）の休館日を除く。	対応言語	木曜日：英語、中国語、ベトナム語、韓国語、タガログ語 土曜日：中国語、ベトナム語、タガログ語
相談方法	相談窓口での相談及び電話相談	電話番号	《フリーダイヤル》 0120-7836-806 《一般の電話番号（有料）》 082-541-3888

（平成31年4月1日からの内容）



こちらJICAデスク

広島から世界へ! いつか世界を変える力になる!

広島から世界へ!2019年4月上旬より,
広島県出身のJICA海外協力隊2名が世界へ向けて出発します!



帰国隊員レポート ～ウズベキスタン共和国篇～

職種：観光 岩井 祐行さん



現地での活動内容

首都タシケントから車で3時間程に位置するジザック州の国立公園の山々や、人工湖アイダルクルでのエコツーリズムの開発計画策定に向けた活動を約1年ほど行い、その後、政府の要請により首都タシケントの省庁に活動場所を替え、インバウンド観光客誘客に向けた政策に携わりました。国の経済政策の転換により基幹産業と位置付けられた観光業拡大のため、観光大臣とともに日本人などの査証（ビザ）緩和やメディアを通じたプロモーションや人材育成セミナーなどの活動を行いました。



▲アイダルクル湖でのメディア撮影



▲観光セミナー

ウズベキスタンってこんなところ!



▲世界遺産サマルカンドのレギスタン広場



▲カラフルな陶器

しての歴史背景から文化は多様性に溢れ、国民はフレンドリーで優しい人が多い印象です。イスラム建築を中心にサマルカンド、ブハラ、ヒヴァなど世界遺産や色鮮やかな伝統的なお土産などがインスタ映えするとのことで、2018年に観光客が倍増するなど観光地として注目されています。四季は日本と同じですが、春と秋が短く、夏と冬の気候が日本より厳しいため、4月～6月、9月～10月が観光のベストシーズンです。

ウズベキスタンの食事

国民食はピラフのルーツともなるプロフ。日本米のような短いお米でとってもおいしくみんな大好きです。その他ウズベク料理にはラーメン、饅頭の元になったラグマン、マントウなど日本人にも親しみやすい料理が多いことが特徴です。またボルシチなどのロシア料理も豊富です。イスラム教徒の多い国ですが、お酒もどこでも飲めて自国のビールやワイン、ウォッカが安くおいしく楽しめます。最近はおしゃれなカフェや外資系のファーストフードも首都タシケントを中心に増えてきて、食事のバリエーションも増えました。



▲代表的なウズベク料理・プロフ

■現在赴任中の広島県出身 JICA海外協力隊(名)

区分	男性	女性	合計
青年	16	19	35
シニア	11	1	12
日系青年	1	0	1
日系シニア	0	0	0

2019年1月31日時点

<JICA海外協力隊>

「自分の持っている技術・知識や経験を開発途上国の人々のために活かしたい！」という強い意欲を持つ20歳～69歳の日本国籍を持つ方が対象のボランティア事業です。

派遣は原則2年間。衣食住を現地の人とともにしながら、互いに理解を深め、同じ目標で途上国の課題解決に取り組みます。また、帰国後も現地での経験を日本の地域や世界の発展に役立つことが期待されています。

そんな草の根レベルのボランティアに、あなたも参加してみませんか？

ウズベキスタン共和国

中央アジアに位置する共和国

【概要】面積：447,400平方キロメートル

人口：3,190万人

首都：タシケント

公用語：ウズベク語

宗教：主にイスラム教

岩井 祐行さんプロフィール

・三原市出身

・福岡の大学を卒業後、旅行会社に就職。福山、鳥取で企業・学校・自治体向けに旅行を中心とした営業として10年ほど勤務。2016年10月よりウズベキスタンのジザック州で、2018年1月より首都タシケントにて観光隊員として活動する。

参加のきっかけ

昔から途上国での生活に憧れていたこと、そしてこれから高い成長が見込まれる観光分野でさらなる経験が積みたいと考える中、異国の方に一人飛び込む青年海外協力隊という制度に興味を持ちました。また他にも厳しい環境での生活や現地の人々や文化への適応、語学などの能力向上など2年間で得られる経験、自信は、今後の人生の財産になると考え参加を決意しました。

参加して思うこと

ボランティアという立場、即ち業務ではないということで自分の考えを押し付けないというスタンスで2年間臨みました。そして相手のペースに合わせて時にのんびりと、時に多忙に活動を行いました。振り返ればそうした姿勢が、深くウズベキスタンのことを知ることができ、良い活動につなげることができたと思っております。

本来、観光という緊急性が低く即効性の低い分野でありながら、国の転換期ということもあって国レベルの政策に直接関わり、ダイナミックに変化を感じられる貴重な経験をさせて頂いたカウンターパート達に感謝をするとともに、今後もウズベキスタンとの絆を大切にしていきたいと考えております。

「グローバルリレーションズ・プログラム(GRP)」参加者の声

HIC article: 蘆思帆さん(中国)

私の名前は芦思帆です。中国の出身です。今は広島大学教育学研究科修士課程の一年生です。GRP(グローバルリレーションズ・プログラム)メンバーになって、ひろしま国際プラザ(HIP)に入居したのが2017年の9月、自分がまだ研究生の時でした。当時引っ越し先で困っていた私は、GRPの募集要項を読んで、こんな素晴らしいところに住むことができたらと思いながら、応募するというチャレンジの一歩を踏み出しました。そして幸運に恵まれ、GRPの担当者やスタッフの皆さんに温かく受け入れられました。HIPに入居して一年半になった今は、身を持って感じたその魅力をより多くの人に伝えたい。

まず、GRPとは何か、そしてGRPメンバーになって何を意味するのかについて述べておきたい。GRPは、外国人留学生が「ひろしま国際プラザ」に入居して、所属の大学に通いながら国際社会で活躍できる「実践力」を身につけることができる、外国人留学生のためのプログラムです。今では、11か国、16人のメンバーが参加しています。GRPメンバーになって、たくさんの資源がアクセス可能になることを意味しています。以下、GRPメンバーとしてHIPできることについて紹介します。

HIPは世界各国から研修に来る人のための施設であるため、いろんな設備・機能が完備されています。GRPメンバーになると、それらが使用可能になります。具体的には、スタディールーム、クッキングルーム、洗濯室、音楽

室、ジム、テニスコートやグラウンドが利用できます。洗濯室の中は、洗濯機以外に給湯器、製氷器、電子レンジとオーブンが備え付けてあり、生活上でとても便利です。また、音楽室の中にはピアノ、ギター、ドラムなどの楽器があり、研究生活の中でも趣味を楽しむ場が作れるのです。交通の面に関しては、平日も休日も定期的に西条駅行きの無料バスがあり、朝晩には広島大学行きのシャトルバスがあります。必要に応じて時間通りに乗れば、時間も体力も大いに省けます。

さらに、GRPメンバーとして、HIPが主催する多様な国際交流活動に参加できます。活動の場所はHIPの内外にわたり、子どもたちや地元住民との交流がメインになっています。右の写真は2018年2月、私が世界まるごと体験デーというイベントに参加した時に撮ったものです。また、HIPでは定期的にロビーアイベントがあり、琴、太鼓、柔道、空手といった日本の伝統文化は地域の人たちが披露してくださいます。

最後に、HIPの一番の魅力とは何かと言うと、それはそこの人々の異文化に対する寛容な態度だと思います。ここでは、外国人が尊重され、優しい支援がいただけます。同じGRPメンバーであり、サポートしてくれる日本人学生のRAも、GRPの関係者も、異文化に対する高い受容性を持っているから、お互い心置きなく交流ができるのだと思います。このような居場所を探している留学生たちにはぜひ目を止めていただきたいものです。



グローバルリレーションズ・プログラム(GRP)とは?

ひろしま国際プラザに入居して大学に通いながら、国際社会で活躍できる「実践力」を身につけることを目的にした、外国人留学生のためのプログラムです。現在、11ヶ国16人の留学生が参加しています。

そのほか、レジデンシアントの日本人学生1名が入居し、彼らを支援しています。

★入居使用料
1泊770円 管理費2,500円／月
月額24,060円～26,370円
(水道光熱費込み)

「インターナショナル・カフェ～メキシコ料理編」を開催します！



日時 2019年5月18日(土) 10時～14時

※時間は変更となる可能性もあります。

場所 広島市留学生会館

HP



Facebook



～インターナショナル・カフェとは？～

異文化理解のためのイベントで、広島に住んでいる外国人や海外経験豊富な講師に自国の文化や風習について紹介してもらいます。イベントではゲームやワークショップ、踊りなどを通じて、その国の文化にふれたりお茶菓子を楽しみながら交流をします。



メキシコ料理と言えば何を連想しますか？おいしい料理がたくさんあるメキシコ料理ですが、2010年にはユネスコの「食の無形文化遺産」にも登録された伝統と文化に密接に関わっている歴史ある食文化であります。

今回はその「メキシコ料理」がテーマです！

前回大好評だった「メキシコ編」に引き続き広島県CIRのホールへさんが皆さんに自慢のメキシコ料理を教えてくれます。おいしい料理を通してメキシコの歴史に触れてみませんか？

※内容・提供物・申込方法は決定次第 ひろしま国際センターのホームページ/Facebookにてお知らせします。

交流部&留学生活支援センター

〒730-0037

広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6F
TEL.(082)541-3777 FAX.(082)243-2001
E-mail／hic@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間

月～金 10:00～19:00 土 9:30～18:00
日・祝日および年末年始(12/28～1/4)はお休みです。



研修部(ひろしま国際プラザ)

〒739-0046

東広島市鏡山三丁目3-1 ひろしま国際プラザ内
TEL.(082)421-5900 FAX.(082)421-5751
E-mail／hicc@hiroshima-ic.or.jp

■開館時間

(情報センター・図書室・NGO交流室)

月～土 10:30～19:00*

日・祝日および年末年始はお休みです。

*情報センター・図書室は平日
12:30～13:30閉館です。臨時に閉鎖する場合は、HPで随時お知らせします。

